年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成 12 年度（2000 年度）から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第 18 号が完成いたしました。

本報告書には、例年に習い平成 29 年度（2017 年度）における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覧いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

熊本大学の第三期中期目標･中期計画期間（平成 28～33 年度）における大学としての目標“～「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学～　「創造する森　挑戦する炎」”に沿い、教員組織である大学院先端科学研究部ならびに教育組織である工学部及び大学院自然科学研究科では、教育研究、社会貢献における活動を展開しており、第三期 6 年間のうちの最初の２年度分の成果を整理したものとなります。

教育面では、工学部における 6 つの学科が外部審査機関から ISO14001 や JABEE などの国際水準の教育プログラムの認定を継続し教育の質を保証する取り組みを継続するとともに、平成 27 年度に採択された「グローバルものづくり実践力の協働教育事業　～Entrepreneurship を持ち社会や企業をリードする人材教育の実践～」により、従来培ってきた体感型授業や問題発見･解決型授業の開発･拡充の他に、学部・学年・国の枠を越えて、協働するものづくり教育を展開しています。平成 26 年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援を受け、設立された「グローバル教育カレッジ」と連携し学部教育のグローバル化の推進しており、平成 28 年度からはグローバルリーダーコースを対象とした AO 入試を実施しました。

研究面では平成 25 年度に選定された「文部科学省研究大学強化促進事業(RU-22)」を核に、工学部・大学院自然科学研究科においても様々な研究が活発に展開しております。第三期中期計画に沿った組織改編計画に、平成 28 年 4 月の熊本地震の経験を踏まえ、平成 29 年 4 月に「くまもと水循環・減災研究教育センター」を発足しました。これまでのパルスパワー科学研究所、先進マグネシウム国際研究センターに加え、「くまもと水循環・減災研究教育センター」とも連携し、先端科学研究部工学系では多くの研究成果を世界に向けて発信しています。また、平成 27 年度大学教育再生戦略推進費「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、工学部・大学院自然科学研究科の学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、熊本を中心として地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラム改革を進めております。

平成 28 年 4 月の熊本地震では、九州地区の大学をはじめとする国内外の多くの教育研究機関より物心両面でも多大なるご支援をいただきました。これらのご支援なくしては、熊本大学工学部・大学院自然科学研究科に在籍する学生が十分な教育を受け、社会に巣立つことさえできなかったと考えています。地震からやがて３年という月日が流れ、工学部新 1 号館への移転作業も平成 30 年度中には終了見込みです。復旧過程での多く皆様からのご支援・ご声援に応えるため、教育・研究・社会貢献という大学として責務を、着実に果たすための取り組みを教職員が一丸となり取り組んでまいります。これまでの実績や蓄積、さらには今回の熊本地震で学んだ多くのことを踏まえて、教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、熊本大学工学部の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月
熊本大学
工学部長・大学院自然科学研究科長
　宇佐川　毅